

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース											
音楽基礎A 4											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	田熊 知存			実務 経験	有	職種	アレンジャー				
授業概要											
ポートフォリオ制作に向け、各個人が必要とする能力を習得する。 作曲・ミックス・音作りなど、多方面からのアプローチにより、楽曲のクオリティー向上を目指す。											
到達目標											
各自が目指すクリエイター像により高いレベルで近づく。 しっかりした裏付けに基づく知識と技術を身につけ、より高レベルなポートフォリオの作成に反映させる。											
授業方法											
主に生楽器を扱いボーシング手法等を学ぶアナログ班と、DTMベースでアレンジを進めるデジタル班に分かれる。 講義等は基本的にその班ごとに行い、演習でさらに細かく個別指導を行うものとする。班の行き来は一定の条件を満たしているならば、可能とする。 オプションとして後期には同じ講義内容をもう一度繰り返すので、自分に合う活用法で利用するものとする。 受講生は1 週間のうちに添削用の楽曲を準備、授業ではその楽曲の改善指導を行うものとする。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
指導に、より客観性を持たせるため二人の講師は極力全員の進行状況を把握するよう努める。弦・管などのセッションレコーディングは9~10月を予定。受講生には自発的に質問・意見を発言する自発性が望まれる。受講生本人が進め方を決める授業なので、躓くたびに自らの力で打開策を見つける必要がある。もちろん教員はその手助けを行う。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	chord symbol=chord scale であることの確認と、基礎的なchord scaleの確認										
第2回	approach note の種類を整理、low interval limit 判定時の注意点を確認										
第3回	グレード9, 12, 17に準じる										
第4回	(A) 音程ごとに2 声ハモの使い分けを行う。4 way close voicing の習得 (D) 基本知識と楽器や用途によつての使い分けを学ぶ										
第5回	(A) drop 2/ drop 3 を習得 (D) 基本知識と楽器や用途によつての使い分けを学ぶ										
第6回	(A) drop 2&4 を習得 (D) 基本知識と楽器や用途によつての使い分けを学ぶ (opt: send/ return)										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース	
音楽基礎A 4	
第7回	(A) 4声の spread voicing を習得 (D) ダンスミュージックにおけるドラムの打ち込みと音作りについて学ぶ
第8回	(A) cluster voicing および中難易度の chord scale を確認 (D) 808とシンセベースについてそれぞれの打ち込みと音作りについて学ぶ
第9回	(A) 決定した楽器編成に基づく楽器特性とスコアリングの確認 (D) コードシンセの打ち込み方や音作りの方法について学ぶ
第10回	(A) 3声の voicing 手法を習得 (D) リードシンセの打ち込み方や音作りの方法について学ぶ
第11回	(A) レコーディング準備 (D) サイドチェーンの用法や使い方を学ぶ
第12回	(A) レコーディング準備 (D) 音を効果的に重ねて、新たな音色を作り出す方法を学ぶ
第13回	(A) レコーディング準備 (D) loop 素材や one shot 素材を使い、リズムや曲に色をつけることを学ぶ
第14回	(A) レコーディング準備 (D) ミックスの基本的な考え方、全体の捉え方について学ぶ
第15回	(A) レコーディング準備 (D) 実際に素材をミックスしてみる